

20万分の1 日本シームレス地質図DVD版の出版 地質基盤情報のさらなる利活用促進を目指して



井川 敏恵

いかわ としえ (右)

toshi-igawa@aist.go.jp

地質調査情報センター
地質情報統合化推進室
テクニカルスタッフ
(つくばセンター)

専門は地質学の中の堆積学・古生物学で、古生代の海洋島で形成された炭酸塩岩の研究を行ってきました。今回のプロジェクトでは、シームレス地質図の作成からDVD出版まで、プロジェクト全般にかかわりました。社会・産業に貢献できる地質情報の発信に努めています。

脇田 浩二

わきた こうじ (左)

koji-wakita@aist.go.jp

地質調査情報センター
センター長
(つくばセンター)

約32年間、野外調査研究を通じて地質図を作成してきました。複雑な日本列島の地質をよりよく理解するための研究と、調査研究の結果得られた地質情報を社会のために役立てる工夫と努力を並行して行ってきました。シームレス地質図は、地質情報を社会に役立てるための工夫の一つで、リーダーとしてプロジェクトを推進してきました。今後も、インターネットの利点を生かして、地質図を社会により役立つ存在としていくための努力を続けていくつもりです。

関連情報：

- 参考文献

脇田 浩二 他 (編)：20万分の1 日本シームレス地質図DVD版、数値地質図G-16 (2009)。

井川 敏恵：産総研 Today、6 (4) (2006)。

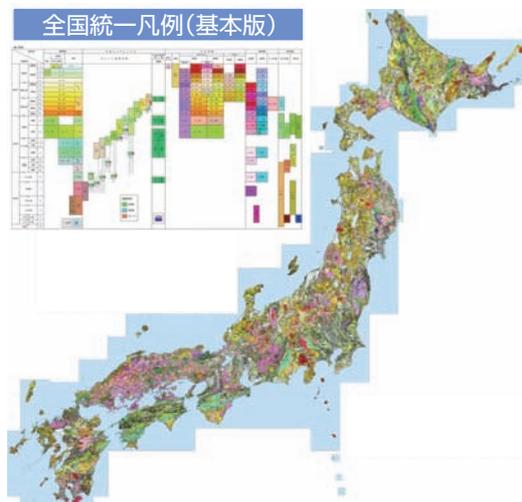
地質図について

地質図は、地球表層を構成する岩石・地層の種類・年代などを凡例で表現した地図です。資源開発、土木・建築、防災や地球環境対策の資料として、また地球の歴史を解明する学術資料として、多様な場面で利用される地質基盤情報です。日本では、産総研 地質調査総合センターの前身である地質調査所が設立された明治15年(1882年)以来、さまざまな縮尺の地質図を作成しています。

シームレス化の経緯

地質図は、作成年代や作成者の違いにより精度や解釈が異なります。そのため、区画ごとに作成される地質図は、隣接する地質図を並べても凡例や地層・岩体名が異なったり、地質境界が不連続だったりという不便なことが多々ありました。

その問題を解消するために、2002年度から研究情報公開データベース(RIO-DB)の課題として、地質図のシームレス化に取り組んできました。シームレス化というのは、地図の区画の境界部での不連続をなくし、日本全体で継ぎ目のない連続的な地質図を形成するプロセスです。20万分の1日本シームレス地質図は、20万分の1縮尺の既存地質図を全国統一の基準(凡例)で解釈し直し、全国規模で連続化するように編集



DVDに収められている20万分の1日本シームレス地質図(右)、および全国統一凡例(左)

された地質基盤情報です。シームレス化が進められた背景としては、これまで紙媒体であった地質図が数値化され、GIS(地理情報システム)上で取り扱えるようになった技術的進歩が大きくかかわっています。

こうして、日本で最も詳細な広域地質図が作成されました。その成果は、下記のサイトで公開しています。画像データのサイトは今年度だけでも、60万件超のアクセスがありました(2009年11月11日時点)。

画像データ

<http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db084/>

ベクタデータ

<http://iggis1.muse.aist.go.jp/seamless/ja/top.htm>

DVD出版とこれからの展望

今回、シームレス地質図のデータセットをDVDの形式で出版しました。シームレス地質図はこれまで、ウェブ上で閲覧するか、小さいサイズのデータを個々にダウンロードする必要がありました。今回、すべてのデータを複数のフォーマットで収録したほか、詳細版と基本版の2種の地質図のデータをDVDに収めました。また各凡例の記載を表ファイルに収めることにより、データベースの強化も行いました。DVDは社団法人 東京地学協会、地学情報サービス株式会社、産総研 地質標本館などで入手可能です。詳しくは地質調査総合センターホームページ(<http://www.gsj.jp/>)をご覧ください。

20万分の1シームレス地質図は、これからもデータを更新し、社会に役立つ地質基盤情報として発信していきます。今後とも多くの方に利用していただけるよう、努力していく所存です。



シームレス化のプロセス

(オリジナルはいずれも、産総研 地質調査総合センター発行20万分の1地質図幅)